

Vol.113
No.3
2022.11.30

農職組ニュース

茨城大学農学部
労働組合

職場懇談会報告

2022年11月2日（水）12：05-12：40（Teams開催）、職場懇談会を行いました。
出席者は13名でした。以下に、議事録を示します。

【木下執行委員長より】

今年度の活動及び交渉は丁重に進んでいる。資料にそって説明がなされた。

1. 第1回 3地区組合合同 事前協議会

- ・令和3年度決算、令和4年度予算について大学執行部より報告が行われた。令和4年度は令和3年度を引き継ぐ形で大きな変更はないことが報告された。令和4年度の予算について、予算書の説明があった。
- ・昨年度の交渉結果の確認を行い、勤勉手当は人事院勧告を踏まえ努力していくことを確認した。
- ・令和4年度の交渉については、令和4年度人事院勧告を踏まえた給与改定、事務職員・附属学校教員の定年延長についての議論・制度化を進める、令和5年度の地域手当の回復、の3点が主な交渉予定となる。

水戸地区は、地域手当は元の状態に戻っているだけなので、今後も粘り強くプラス α を求めて交渉をしていく意向。農学部としても異論はないので、できるだけ上積みを目指して交渉に臨む。

2. 全大教教職員研究集会

ハラスメントに関する分科会に出席。他の大学と比較して茨城大学執行部の対応は行われていると感じた。雇止めについて、ハラスメントがみられる場合が出てきており、農学部においても同様の問題が発生しうることに注意する必要がある。

3. 全大教地区別代表者会議

関東甲信越地区の代表者会議に参加し、各大学・研究機関の直面する問題点について意見交換を行った。多くの大学・研究機関が抱えている問題は以下の2点である。

- ・各大学とも授業時間の延長、授業期間の短縮などの検討が進められており、機関によっては、強引な進め方が行われており、その方法が問題視されている。
- ・エネルギー価格の上昇が大学の財政を圧迫し、期末手当や勤勉手当の削減の提案が行われている。

特に2点目については、今後の交渉において重要な点と考えられる。

以上が組合としての活動である。最後に、先日鍬耕祭へ組合として参加した。ご協力をいただき感謝申し上げます。

【質疑応答と意見交換】

内田先生) 物価の上昇に伴い、皆さんの生活も苦しくなっていく。更なるベースアップを主張していただきたい。エネルギーの件に関しては他の組織でも同じような話を聞いている。研究費を減らされるのは重大なことなので、それに関しても力を入れて交渉にあたっていただきたい。

→ケースによっては燃料費高騰に伴う暖房費の要求等も検討していく。

小川先生) 物価高騰で勤勉手当を減らすとなると苦しい。大学の財政が苦しいのであれば、大学間で協力して文科省に働きかけていくことはできないか。

→国も燃料費用の補填の話も出ているので、大学執行部に対してもそのような働きかけをしていく。

成澤先生) 有期雇用職員の待遇改善について。一律の雇止めは効率が悪い。現状の制度が実態に即していないので、何とかブレイクスルーできないか。情報共有として、エネルギーの問題について。岐阜大学では電気代の高騰に伴い、すでに需給者負担になっている。茨城大学でも起こりうると危惧している。

→有期雇用の無期転換に関しては制度的に幅が広がるよう大学側に働きかけていく。

長南先生) 地域手当に関する確認。

→規程の8%から震災後暫定的に下がり、徐々に元に戻りつつある。今年度は7%で合意。令和5年度は8%回復へ向けて進んでいる。

安江先生) 雇い止めの問題は昔からある。再雇用の基準となるものを提案してはどうか。

→ジョブ型雇用にシフトしていくのはどうか。安江先生の案も検討していきたい。

後ほど気づいたことがあれば、組合事務または木下まで連絡いただきたい。今後の職場環境改善に努めていく。

以上

鍬耕祭バザーご報告

10月22日(土)、組合はバザーとヨーヨー釣りで鍬耕祭に参加しました。

当日の売上にリサイクルショップでの換金を加えると収入は15,025円、支出はヨーヨー代2200円、差引き12,825円の利益となりました。

12,825円は全額、組合へのカンパとさせていただきます。

当日お店番をして下さった皆さま、バザー品を提供して下さいました皆さま、ご協力ありがとうございました。



※内容についてのお問い合わせや情報提供などありましたら、
農学部労働組合(029-888-8536 /dp37294827@lf.lolipop.jp)までお願いします。